

マテリアリティ

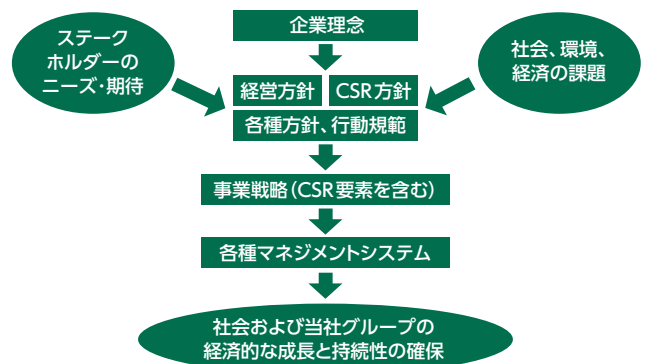
マテリアリティ(重要なCSR課題)の事業戦略への組み込み

当社グループは、事業戦略にCSR課題を反映させるために、事業への影響度と事業活動が社会に与える影響度を分析・評価した上で、取り組む必要があるマテリアリティを明確にしています。特定したマテリアリティについては、事業戦略に係る目標を設定し、その目標を達成するための具体的な活動計画「マテリアリティ対応計画」や、目標の達成状況を図る経営指標(KPI)を策定しています。

なお、マテリアリティは、ステークホルダーのニーズ・期待や社会課題を考慮した上で当社グループのCSR委員会にて定期的に見直しています。また、マテリアリティを事業戦略に組み込む際には、事業基盤の強化や企業価値の向上などの観点を考慮した上で、ステークホルダー満足度の向上につながる計画をCSR委員会で策定しています。

当社グループは、マテリアリティを中期経営計画に組み込んだビジネスプロセスを運用することにより、財務・非財務の両面で経営の質を向上させ、事業と社会の持続可能な成長を目指しています。

CSR推進プロセスの概要



本レポートにおけるESG報告について

当社グループは、マテリアリティ対応計画を事業戦略へ組み込み、第五次中期経営計画の中でESGに関する目標を下図の通り設定しています。

本レポートでは、中期経営計画に関連の深いマテリアリティ項目の概要を報告しています。詳細およびその他の活動状況については、当社Webサイトで情報を開示します。

第五次中期経営計画に組み込んだESG目標と進捗状況

	持続的な成長課題	活動内容・目標	2019年度の状況
E	Environment エネルギー・デバイス・カンパニーとして持続可能な地球環境への貢献		
	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮製品の開発とグローバルでの販売 事業活動で生じる環境負荷の低減 	<ul style="list-style-type: none"> 全社環境配慮製品売上比率 35% (2021年) 全社CO₂削減 目標6%/3年 全社水使用量削減 目標8%/3年 	<ul style="list-style-type: none"> 総需要が伸びているISS電池需要の積極獲得による環境配慮製品比率の向上 一部海外生産拠点で太陽光発電システム導入による使用電力削減(CO₂排出量の削減) 充電設備で使用する水の循環利用(水使用量の削減)
S	Social 人権の尊重と社会への貢献		
	<ul style="list-style-type: none"> 人権の尊重 人材育成による生産性向上とモチベーション向上 労働環境/労働安全衛生の向上 消費者が安心する製品と情報の共有 CSR調達による社会課題への貢献と調達リスクの低減 	<ul style="list-style-type: none"> 人権の教育とリスクマネジメントの強化 自律型人材育成と多様な人材活用基盤確立 ワークライフバランス向上施策の推進 全社品質向上の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> 全職場において人権尊重に関するミーティングを展開 年間計画に基づく階層別研修および品質教育を実施 有給休暇10日取得義務化の対象を管理職や有期雇用社員にも拡大 経営の基本とした「品質重視」に基づく、体系的活動の展開
G	Governance 公正、透明、迅速なグループ全体のガバナンスの推進		
	<ul style="list-style-type: none"> 国際規範の尊重と各国の法令順守 知的財産の保護 機密情報管理の徹底 迅速かつ適切な経営意思決定 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス教育の推進/法令情報整備 特許侵害予防活動の強化と模倣品の撲滅 コーポレートガバナンス・コードを意識した経営 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス啓発情報にて法令情報を周知 中国における商標権侵害訴訟勝訴 香港での類似商号取消訴訟での取消確定判決 女性社外取締役の選任 →社外取締役3分の1超 →多様性の確保